

雲間の月に照らされて

愛に触れたくて そのくせ僕は臆病で  
本当に守っていたものは自分自身かもしれない

君と離れてからは そう思うことがあるんだ  
もし君が聞いたら 遅すぎるって怒るかな

二人が辿った道 決して真っすぐじゃなかったけど

分かち合えたことだって 少しはあったよね ありがとう  
もし君が聞いたら 遅すぎるって笑うかな

雲間に覗く月が 僕に何か言おうとしてる  
もし君が隣にいたとしたら 月が綺麗だって素直に伝えるのに